

1 校訓

『 自主 友情 努力 』

2 学校教育目標

(1) 教育目標

- ア コミュニケーション力と基礎的・基本的な学習内容の定着・向上を図る。
- イ 自分から進んで取り組む子どもを育てる。
- ウ 心豊かにたくましく生きる子どもを育てる。
- エ かかわり合い、認め合う子どもを育てる。

(2) 目指す子ども像

- ア 豊かなコミュニケーション力を身に付け、互いに伝え合い分かり合おうとする子ども
- イ 主体的に学習に取り組み、よく考え友だちと協力して問題解決を図ろうとする子ども
- ウ 感動する心をもち、最後まで努力し挑戦しようとする子ども
- エ 人とかかわり合い、相手の良さを認め合える子ども

(3) 目指す学校像

- ア 互いに伝え合い分かり合い、子どもの笑顔があふれる、安全・安心な学校
- イ 子どもの「なぜ」を大切に、仲間と共にもっと学びたい意欲を育む学校
- ウ 感動した心を素直に表現できる力や、努力した過程を評価する学校
- エ お互いの良さを認め合い、ほめ合う学校

3 学校経営の基本方針

- (1) 教職員の協力のもと、『チーム弘聾』による安全・安心な学校づくりを目指す。
- (2) 子どもの良さをのばし、やる気が出るように個々の実態に応じたきめ細かな指導を行う。
- (3) 様々な教育活動のねらいを明確化し、関連付けながら指導を行う。
- (4) 子どもたちと共に喜び合い、ほめ合いながら、地域の方々と協力し、開かれた学校づくりと心豊かな教育活動を推進する。
- (5) 地域における特別支援教育のセンター的機能の充実。
- (6) 全日聾研青森大会を見据え、全校体制での研究・運営体制を構築する。
- (7) 働き方改革を進め、子どもたちに向き合う時間と教職員の心身の健康を確保する。

4 学校経営の重点

- (1) 個に応じたコミュニケーション力と基礎的・基本的な学習内容の定着・向上を図る。
 - ア 幼児児童生徒一人一人の教育的ニーズに応じた学習指導の充実と、少人数・重複障がいに対応した指導形態（個別・小集団・合同）の工夫。
 - イ 個別の指導計画を活用した授業の充実。
 - ウ 自立活動と各教科の関連付けによる、確かなコミュニケーション能力の育成。
 - エ 防災教育の充実と防災意識の向上（有事の際の連絡・避難体制の再点検）。
 - オ 適切な SNS の活用やいじめ防止の取組の推進。
 - カ 感染症予防等の安全な教育活動の推進。

(2) 自分から進んで取り組む子どもを育てる。

- ア わくわくドキドキする授業や子どもの興味関心に触れる授業づくり。
- イ 分かる授業やもっと学びたくなるような授業づくり。
- ウ ICT を活用した主体的・対話的で深い学びを目指した授業づくり。

(3) 心豊かにたくましく生きる子どもを育てる。

- ア 心を育む豊かな体験活動の充実。
- イ 互いを認め合い、いじめや体罰のない明るい学校。
- ウ 話しやすい明るい学校づくりの推進。

(4) かかわり合い、認め合う子どもを育てる。

- ア 多様性に応じた教育的対応の工夫。
- イ 個別の教育支援計画を活用した交流活動の充実。
- ウ 進路指導と障がい理解を関連付けた、段階的なキャリア教育の推進。
- エ コミュニティ・スクールを通して地域の人的・物質資源を活用した教育活動の推進。

(5) 教職員の専門性向上と地域における特別支援教育のセンター的機能の充実。

- ア 多様なコミュニケーション手段による指導の専門性向上と知識・技術を継承する OJT の実施。
- イ 授業研究と授業改善に関連した定期的な話し合いの場の設定。
- ウ 全日聾研青森大会に向けた、組織的・計画的な校内研究の推進。
- エ 地域のニーズに応じた教育相談・学習会の開催と、関係機関（保健・医療・福祉等）との連携強化。
- オ 医療機関等と連携した乳幼児等教育相談の充実。
- カ 言葉のおくれ等が見られる幼児の支援。
- キ 学校公開やホームページ等による情報発信。

(6) 働き方改革を進め、子どもたちに向き合う時間を確保する。

- ア 校務分掌の重点課題に応じた業務内容の具体化と優先順位の明確化。
- イ マニュアルのデータ化や生成 AI の活用等による事務負担の軽減。
- ウ 分掌間を越えた柔軟な連携。